

<< 北品川禁煙通信 >>

第 12 号：新しい風を都政に！

都民は受動喫煙から守られるのか？



平成 24 年 11 月 29 日、東京都知事選挙が公示されました。1995 年から 4 期連続で知事を務めた石原慎太郎氏の国政への転身に伴う突然の辞任を受けて新しい東京都のリーダーを選ぶ選挙が 12 月 16 日に行われます。都知事は内閣総理大臣にも匹敵する影響力を有しているため、都知事選はメディアにも大きく取り上げられます。また、日本国内の選挙では定数 1 名当たりの有権者数が最大の選挙でもあります。毎回この選挙には多くの立候補がありますが、本命の候補数人と落選覚悟であえて立候補するユニークな泡沫候補で構成されるという特徴があるようです。

今回は、都民の健康を守るという観点から都知事になる可能性が高いと思われる『本命候補』についてその主張を検証していききたいと思います。その候補とは、前神奈川県知事の松沢成文（しげふみ）氏（54）、弁護士の宇都宮健児氏（66）、元代議士の笹川堯（たかし）氏（77）、そして前副都知事の猪瀬直樹氏（66）の四名です。ただし、現実的にはそのなかでも松沢氏と猪瀬氏の一騎打ちになる可能性が高いと思われます。

今回の都知事選挙で我々医療関係者が注目する理由は、

神奈川県知事在任中に日本で初めて受動喫煙防止条例を成立させた松沢氏が立候補した点にあります。彼は、知事在職中の神奈川県において、欧米の先進諸国ではすでに当たり前となっている受動喫煙対策に真摯に取り組み、タバコ産業の露骨な妨害工作にも屈することなく、県民の健康を守ると同時に医療費の削減にも有効なこの条例を敢然と実現させたのです。その後兵庫県でも同様な条例が発効され、今やその他の自治体でも受動喫煙防止条例が実施されようとしています。折しも 2020 年のオリンピックの招致活動が佳境を迎えようとしている時に東京をタバコ対策の最先端都市にすることは招致の必要条件であり、タイミングとしては申し分ありません。彼は出馬表明の記者会見で「クリーンエア東京」を第一に掲げており、屋内では受動喫煙対策を、屋外では排ガスの更なる減少と都バスの EV 化などを進めるとしており、まさに都民の健康を真面目に考えている事が伺われます。

対する前副知事の猪瀬氏はどうでしょうか。はっきり言って喫煙問題に関しては無関心なようです。なによりもご自身がヘビースモーカーであり、タバコに関してはむしろ擁護派。こともあろうに日本たばこ産業（JT）の作る「愛煙家通信」というウェブサイトに関役の副知事として寄稿しています。このサイトは JT が世の中の禁煙の流れに対抗するために有名人の喫煙者を動員して喫煙の素晴らしさを PR するために作ったサイトですが、毎回異なる著者が文章を寄せる形式になっています。およそ 4 年前に猪瀬氏が寄せた文章を下記に引用してみましよう。

「まず事実として言いたいのは、昨年度（07 年）の国のたばこ税が約 2 兆 2000 億円。そのうち地方のたばこ税が約 1 兆 1000 億円もある。僕は政府税制調査会委員でもあるけど、ばかにならない税金ですよ。（中略）分煙についても以前とは比べ物にならないほど、喫煙者の意識も変わってきている。新幹線では喫煙スペースが徹底され、分煙化

は進んだ。今は飲み屋さんなんかでも、分煙に配慮しているケースが増えているでしょ。つまり、分煙で受動喫煙に関する問題は、かなりのところクリアできていると思うんだよね。喫煙者の健康については、まあ、これは個人のアレだからね。（中略）マナーの問題についてひとこと言うと、これはかなりよくなっているよ。僕もね、当然、携行灰皿を持ち歩いてるし、そういった意味じゃ「ポイ捨て」を批判した意味はあったと思う。今、ほとんど、町なかでポイ捨てる人はいないでしょ？それだけの効果があったら、それで十分なんじゃないかな。それを、それ以上にヒステリックに言うと、禁煙ファシズムになっちゃう。特にマナーについては、精神的自制であって、本来法律で縛るものじゃない。また、近いところではこんな出来事もあった。知り合いの歯医者さんに久しぶりに会ったら、顔が真ん丸でメタボになっている。聞いたら禁煙ストレスで食べちゃうみたいで、ああ、やめたらあんなっちゃうんだなと（笑）。喫煙、メタボ、五十歩百歩、よしあしかもしれないけど、健康における費用対効果は考えどころだと思うよ。ストレスのない人間なんていないんだからね。≫

まず、猪瀬氏の政策には受動喫煙防止に関してはどこにも見当たらないのが気になります。石原前都知事はこの件に関しては選挙公約に書いているにも関わらず結局何もませんでした。猪瀬氏もそれを受け継ぐということでしょうか。彼の発言からわかる事は喫煙問題に関して甚だ勉強不足と言わざるを得ないという事です。タバコ税は重要だという論理はタバコ会社の常套句であり、JT お抱えの有名人もみな同じような主張を繰り返していますが、タバコによる健康被害により増大する医療費の方がはるかに多いという事を忘れてはなりません。国立がんセンターの 1996 年の試算では国家レベルではタバコ税が 1 兆 9000 億円、タバコによる医療費が 3 兆 2000 億円。その他のもろもろの計算で結果的には約 3 兆円の赤字になることが示されています。分煙化が進んだと猪瀬氏は言いますが、WHO のタバコ規制枠組み条約では分煙化

という概念はなくこれもまた少しでも喫煙スペースを確保しようとするタバコ産業の戦略なのです。受動喫煙防止には室内は完全禁煙以外はダメなのです。また喫煙問題は単なるマナー問題ではありません。「禁煙ファシズム」という言葉も JT お抱えの喫煙有名人が申し合わせたように使う言葉であり、禁煙とメタボが五十歩百歩と言う猪瀬氏の無神経さには呆れて言葉を失います。

東京都と並ぶ世界の大都市としてニューヨークがあります。皆さんはニューヨーク市長のマイケル・ブルームバーグ氏をご存知でしょうか？彼はジュリアー二前市長の後を受けその政策の柱に市民の健康を第一に掲げて市長に当選し、世界でも有数の受動喫煙対策を実施したのです。つまり、彼は目先のタバコ税などよりも市民の健康と将来の医療費の削減を選んだのです。こうした業績が評価されてか 2010 年、過去 30 年間の歴代ニューヨーク市長の人気投票で見事第一位に輝いています。最近では肥満対策のためにジャンボサイズのソフトドリンクの販売を禁止する法案を提出し、おせっかいなどとマスコミを賑わせているようですが、『市民の健康を守る』という彼の強い意志にブレはなく、まさにリーダーとしてのあるべき姿を見せつけています。

今回の知事選は我々が直接東京の首長を選ぶまたとない機会です。自らの一票が直接結果に反映されるという点では総理大臣の選挙よりもエキサイティングと言えます。都民の健康を考える時、どちらの候補が適任かは火を見るよりも明らかでしょう。しかし、政治と言うものはそれだけでは動きません。猪瀬氏には自民・公明・おまけに石原氏のいる維新の会も推薦に回っており、大方の予想は猪瀬氏の有利が伝えられています。そのためか、記者会見や討論会でも猪瀬氏は自信満々と言った面持でした。

12 月 16 日の都知事選挙は東京都民の意志が試される選挙です。どうか選挙へ行き、あなたの一票を投じて下さい。そして、日本の首都である東京の首長としてふさわしい人を選びましょう。東京に新しい風をもたらそうではありませんか。